



いのち でんしょう 命の伝承

私たちには誰もが両親2人の存在が有ります。私たちの両親にもそれぞれ両親2人ずつが存在します。

祖父母のまた両親というようにさかのぼっていくと、10代で1024人の先祖、20代で104万、30代で何と10億7千万人の先祖がいる計算になります。

私たちが今、こうして生きている……志を持ってその実現のために努力できるのも、おいしい料理に舌鼓をうてるのも、泣き笑いできるのも全てご先祖のおかげです。ご先祖の無数の命が一つになり、遠い過去から未来へ向けて脈々と流れていく、その流れの先端に、私たちがいるわけです。

私たちが物事が順調にいつている時は有頂天になってしまったり逆の時はグチを言ったり、嘆いたりしてしまいます。つまり、一人で生きている気になってしまっています。

しかし、ご先祖の一人でも、生まれなかったり、若死にしたり自殺したりしていれば、私という人間は存在していません。どんな厳しい環境の中でも必死に子供を育て命をつなげてくれたからこそ、今ここに私という人間が存在しています。戦や飢饉をくぐり抜け、どんなに必死で生き抜いてきたことか。そのことを思うと……自然に感謝の気持ちが湧いてきます。

私の命は私だけのものではない。例えば、

「自分はダメな人間だ」とか、「私はこの程度の人間だ」などという思いは、これまで命を受け継いできたご先祖に対し実に失礼なことです。自分を大切にすることが先祖を大切にすることであり、先祖を大切に思うことは、自分を大切に思うこととなります。私たちは「自分の人生」と思うから、途中であきらめたり妥協したり、逃げ出したり出来ます。

しかし、「ここであきらめたらご先祖にすまない」「つまらない人生を送ってしまったら申し訳ない」そう思えばいくらでも踏ん張れます。

私の人生は、私だけのものではない。私大切に思う人、私を大切に思う人たちの集大成が私の人生であることを心に強く刻んで生きて行きたいものです。

(『渋谷区倫理法人会 モーニングセミナーのちよっと良い話』より)

ふしきこくさいぶちょうらいはく 伏木国際部長来伯

伏木久登国際部長が3月4日に来伯され、短い滞在ですが、サンパウロ、アメリカーナ、ブラジリアで講演されます。会員はもちろんのこと、非会員の皆さんも誘い合わせて、ぜひ出席していただきたいと思ひます。

ふしきぶちょうについて 伏木部長日程

3月4日 (金)

14:10

サンパウロ到着

(松原ホテル泊)

19:00 講演会 (日系パレスホテル)
テーマ (成功の秘訣、健康の秘法)

3月5日 (土)

10:00 セントロ支部朝の集い

12:00 歓迎昼食会

13:00 アメリカーナ市へ移動
(NOHOTEL泊)

18:00 講演会 (NOHOTEL)
テーマ (約束を守ればよい事がある)

3月6日 (日)

09:00 全支部合同朝の集い
(アメリカーナ支部にて)

09:30 講話

10:30 ひな祭り茶会

12:00 歓迎昼食会

3月7日 (月)

12:40 ブラジリア市へ移動

19:00 講演会

3月8日 (火) ブラジリア観光

15:00 アメリカーナ市へ移動

19:00 役員会 (アメリカーナ支部)

3月9日 (水)

07:00 ミナス・ブラジル社朝礼 (視察)
朝食

サンパウロへ移動

帰国

〔倫理〕の17か条 ③

(先月号の続きです)

13条 本を忘れず、末を乱さず

――反始慎終――

枝葉のことは気をつけるが、何事につけても本を忘れがちである。初心を忘れ、自分が受けた恩を忘れるから、いつしか怠け、過ちをおかす。少しの困難にも耐えることができない。常に本を忘れず、また後始末をきちんとするこ

とが大切である。とりわけ、わが命の本である両親の恩を思い、祖先を敬する心を失ってはならない。

14条 希望は心の太陽である――心即太陽――

都合がよいから希望をもつのではない。一度しかない人生、二度と出くわすことのない仕事だから、その前途に燃えるような希望をもつのである。うまくいかないから望みを失うのではない。望みをなくすから、崩れていくのである。希望はいくら灯しても尽きることはない。希望は永遠の光である。

15条 信ずれば成り、憂えれば崩れる

――信成万事――

自信のないことは失敗する。憂え心をもった弱気になると、物事はおかしくなっていく。きっとできるという信念が、そのことを成就させる。信は力である。心の底から信じてくれる人にはウソを付くことができない。人の世の交わりは信によって成り立つ。信は、動いて愛となる。乱れは、信の欠けたことから起こる。

16条 己を尊び人に及ぼす――尊己及人――

世の中に、たった一つしかない宝というべき自分自身の個性を、できるだけ伸ばして、人のために働き、身をささげよう。それが自分を尊ぶことになる。己を尊ぶの極は、ささげることにある。ささげつくして己が無くなったとき、一切が己となる。

17条 人生は神の演劇、その主役は己自身である

――人生神劇――

宇宙の生命、統一の中心、万象の根源、これを神あるいは仏という。神は幽なるもの、全てはそこに一と統べられている。人生も、人間だけ

の小さな恵や力を超えた、もっと大きなもの
 によって動かされ、つくられていく、神の演劇で
 ある。私たちはその演劇の主人公であるから、
 演出の作法である〔倫理〕に則して、力いっば
 い生きぬいていこう。

以上の17か条は日常生活の中で〔倫理〕を
 実践するうえで指標となる項目を要約したもので
 す。

〔丸山敏秋著 『純粋倫理入門』より抜粋〕

しきなみ短歌

- ❖ 髪の毛の年ごと薄くなっていく頭だけ父に
似ていく日々か 川村幸男
- ❖ 六匹の子犬といっしょに捨てられて助けら
れたる花ちゃん愛しい 須郷昭代
- ❖ どこまでもショッピングモールは輝いて夫
は言いたり「クリスマスだ」と照屋美佐子
- ❖ 古い母はいかにおわすか胸せまる久方振り
の訪日ひかえて 徳力洋子
- ❖ 現役で八十路迎えて鬘鑠とこれも早起きの
成果となるや 山田充伸
- ❖ われの足弱くなれどもゆっくりと転げない
ように下見て歩く 松本つよ子
- ❖ 丸五年病魔とたたかいわが夫は天寿を全う
冥土の旅へ 大志田良子
- ❖ 起きたとき光が見えた何か今日いい事ある
など実感したり 三田村元信
- ❖ 欲を捨て誠かたむけ筆とればやがて広がる
澄めるやすらぎ 岡田 進
- ❖ 編み物は育ての母の得意なれば編みては待
てり吾子の誕生 島田光男
- ❖ あの山が常念岳と指す人の指に添いつつ
その指を見つ 木村英世
- ❖ 散り敷けるもみじの紅に染められて吾もな
りたり秋の一部に 矢口裕司

丸山敏雄語録

- 急ぐな…先のことを心配するな…自然に
任せて…処置をとれ…。
- 耳で聞くものではない、心で聞くように。
- 大事な仕事は朝のうちに片づけてしまえ！
- 「姿勢を正す」ということが、「心を正
す」ということにつながる。
- 善を知って行わないのは、悪を知ってやめ
ないのと同じである。
- なるべく世の中で評判のよいものや、人が
よいというものは、見たり聞いたりしてお
きなさい。
- 人間、疲れるということは、不満がある時
ですよ。感謝の気持ちを忘れると疲れます
ね。私は旅行が好きですし汽車の窓から美
しい景色を眺めていると、嬉しくて、疲れ
るどころじゃありませんでしたよ。
- 親に対する気持ちというのは、カタチでは
ないのです。甘えてもよい、言いたいこと
は何でも言ってよい、胸に飛び込む気持ち
でなくてはいけない。
- 一つのことを、まず十年続けなさい。そし
たらきっと一流になれる。
- 言うべき時には、我慢したり遠慮したりし
ないで、サラッと、きちっと言えばよいの
ですよ。
- 習字は、字を上手に書くために習うのでは
ありません。字に現れた自分を磨くために
あるのですよ。
- 先のことを心配したり、周りの人に余計な
気を使わないで、自分の目標をしっかりと
見定めて、精一杯やりなさい。あくまでも
自分を信じるのですよ。
- 婦人は、美しく、やさしく、強いのがよろ
しい。

〔丸山敏雄著 『自分経営の心得』より抜粋〕